

No. 88

2012年（平成24年）

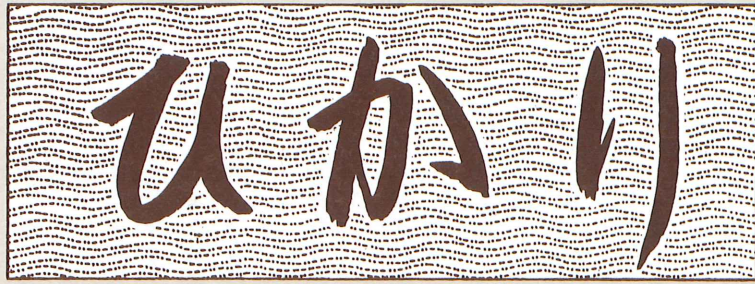
11月1日

発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組

責任者

片桐 淨映



ろくじ みょうごうおや
六字名号親のころよ

おや
親のころは子供のころ

こおん
御恩うれしやナムアマミダブツ

みょうごうじん
妙好人 浅原才市翁



日高組「子どものつどい」-キッズ・サンガー

阿弥陀経に聞く

(ホ) 下方

『舍利弗、下方の世界に、師子仏・名聞仏・名光仏・達摩仏・法幢仏・持法仏・かくのごとく恒河沙数の諸仏ましまして』

仏さまの位置は東南西北と時計回りになっている。下方に仏さまはいてくれる。私たちは、仏さまは天や上にいるものだと勝手に思っている。下にいるのはモグラか地獄だと思っている。阿弥陀経だと仏さまは、私たちの周りだけでなく、私の下にもいてくださって、私たちが地面やその下から支えてくださっている。私たちが支えて、そこにも仏さまがいてくださって、阿弥陀さまを称えられているのです。

(ハ) 上方

『舍利弗、上方の世界に、梵音仏・宿王仏・香上仏・香光仏・大焰肩仏・雑色宝華嚴身仏・娑羅樹王仏・宝華徳仏・見一切義仏・如須弥山仏、かくのごとく恒河沙数の諸仏ましまして』

経名を挙げる

『舍利弗、なんちが意においていかん。なんがゆゑぞ名づけて一切諸仏に護念せらるる経とするや』

お経の意味上の名前を挙げています。二回も「一切諸仏に護念せらるる経」と繰り返している。この繰り返しは、こんな話と同じだ。佐藤浩先生の『いっぱいだいすきおかあさん』という児童詩集(ぼるす出版)に、小学四年生のこんな詩がのっています。

お母さんが 車にはねられた

お母さんが 病院の 霊安室に寝かされていた

お母さんを 火葬場へ連れていった

お母さんが 骨に なってしまった

お母さんを 小さな箱に入れた

お母さんを 仏様においた

お母さんを 毎日拜んでいる

担任の先生がこの子に「お母さんは一回書けばわかります。だから、二行目以下のお母さんはなくてもいいよ」と仰つたのですが、この子はどうしてもわかってくれません。こんな時、どう指導したらいいのでしょうかと、佐藤先生におたずねしたのでした。その時、詩人である佐藤先生は即座にこう答えられました。

「その子の気が済むまで、何回でも書かせてあげてください。詩の形を整える前に、その子の悲しみを分かちもって下さい。そうすれば、なぜお母さんが一回では駄目なのかがよくわかると思います。もしその子がお母さんを百万べん書きたかったら、百万べん書かせてあげて下さい」

(永原智行)

三つのやくそく

少年連盟編集の「せいいてん」に三つのやくそくがのっています。

み仏の み教えを きくものは

「なかよく やさしく 礼儀正しく いたします」

「くるしみも かなしみも よろこびも わけ合います」

「ここに あたたかさを ことばに うつくしさを たいどに あかるさを もちます」

と教えられています。

先日の兒童念仏奉仕団に参加した時の仏参で、最初にお勤めされました三つのやくそくが、なぜか心に響いてきました。

3年ほど前にNHKの放送で「孤独死」（一人暮らしで、看取ってくれる方がなく死んでいく）が取り上げられました。その次に「無縁死」（身寄りもなく・友だちもなく・世間との付き合いもなく・一人さびしく

人生を終わっていく、縁を嫌った人が何千人もいると伝えられました。

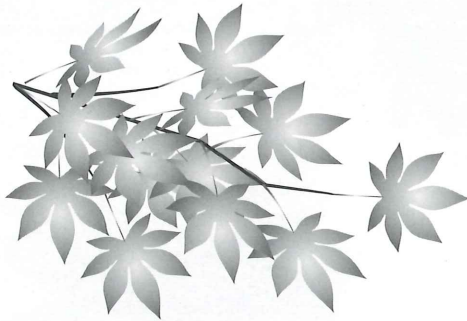
昨年の大震災以後、「絆」という言葉が目・耳に飛び込んできます。「絆」を国語辞典で調べると、離れにくい関係・切ることのできない心の結びつきと説明されています。

親鸞聖人は「一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり」「遠く宿縁を喜べ」と云われています。私たちの教団は同朋教団であります。浄土真宗聖典（注釈版）に「同朋・同師同門のとも。同じ専修念仏に生きる仲間。すべての人間は仏の子であるという自覚にもとづき明らかにされた、念仏者の平等性をあらわすことば」とかれています。

その、み仏のみ教えをきく、私たちは、生かされて生きている、私にきづくことが大切であると教えられています。一人じゃないよと呼

び続けて下さる「おかげさま」の世界にきづかされたとき、御恩報謝のありかたとして、三つのやくそくがしめされたのではないのでしょうか。特に、「くるしみも かなしみも わけ合います」本当にあなたの悲しみ苦しみが私の悲しみ苦しみですという阿弥陀さまのように、かなしみに寄り添っていく人生、思いやりのこころを持ってお互いに支え合う人生を送りたいと思います。

（藤本使朗）



法悦クイズ

仏教は誰のためにありますか？

次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 死んだ人のために、迷わないようにと
2. 生きている人のために、喜びの人生が送れるようにと
3. 自分の思いを通したい人のために、実現できるようにと

87号の正解は、「2. 築地本願寺」でした。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|-------------|-------------|
| 日高町 坂田 政代 様 | 由良町 中崎工ミコ 様 |
| 由良町 小林 照代 様 | 御坊市 塩田 廣一 様 |
| 由良町 磯田 由美 様 | |

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成25年1月31日(必着)

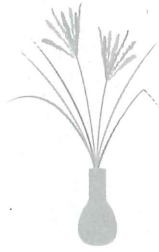
※発表は次号

門徒心得

こう香

香はインドに起源をもつ
 礼拝の用具で、塗香・抹
 香・沈香・線香などがあり
 ます。
 お香のたき方としては、
 正式には燃香といひ、抹香
 (粉末状のお香)を一列に
 香炉に並べ、端から着火し
 てたいていきます。

- 江戸時代初期にこの抹香
 の代用として線香が考案さ
 れ現在も使われています
 が、線香は立てずに適当な
 長さに折って横にしてたき
 ます。
- お香は隔々まで分け隔て
 ることなく行き渡る阿弥陀
 様のお慈悲を表すものとし
 て味わうことができます。



(松本秀法)

- 少量でもできるだけ香りの
 良いものを使いましょう。
 仏前にお香を供える供香
 の一つに焼香があります。
 焼香の作法は次の順序で行
 います。
- ①焼香卓の二、三步手前で
 立ち止まって一礼し、左
 足から卓の前に進みま
 す。
- ②右手で香盒(香を入れる
 器)のふたをとり、香盒
 の右側の縁にかけます。
 (ふたが取り外されて
 いる場合は不要です)
- ③右手で香を一回だけつま
 み、いただかずにそのま
 ま香炉に入れます。
- ④香盒のふたを元通りに閉
 じます。(焼香者が後に
 続く場合はふたはその
 ままにします)
- ⑤両手に念珠をかけて合
 掌・礼拝します。
- ⑥右足から二、三步後退し、
 立ち止まって一礼し退
 きます。

読者の声

※いつも「ひかり」を楽し
 みに読ませて頂いてい
 ます。
 法悦クイズも楽しみです。
 よろしく願います。

※お世話になります。「門徒
 心得」楽しみに読んでい
 ます。記憶が薄くなつて
 困ります。くり返し続け
 ていただきたく思いま
 す。

※先日、日高郡仏教会主催
 (平成二十四年度仏教
 講演会)やなせなさんの
 の「ご縁つながりコン
 サート」に行つてきまし
 た。やなせさんのお話の
 中で「仏教とは、生きと
 し生ける生命を慈しむ」
 ものであるという言葉
 にとても心を打たれま
 した。また子供の頃から
 のお寺にまつわるお話

やお寺の歌詞がある「夕
 焼け小焼け」の歌などの
 楽しいひとときに、仏
 教をとても身近に感じ
 ました。ありがとうございます。
 いました。

「であい」

もう五十年も昔の事にな
 ります。というのも今年ロ
 ンドンオリンピックが開か
 れましたが、私は東京オリ
 ンピックの年には東京に居
 ました。高校を卒業してか
 らです。上京して最初に築
 地本願寺にお参りをしまし
 た。写真に黒い服を着て式
 章をかけて写っています。
 立派なお寺だと思いまし
 ました。

それからは、昼間は仕事、
 夜は学校と忙しい日々でし
 ました。休日お世話になった社
 長さん夫妻に、代々木のオ
 リンピック選手村に見学に
 連れて行って頂きました。
 外国の背の高い選手が徒歩
 競争の練習をしています。
 地面の色が黒かった事を覚
 えています。品川に住んで

いましたが、新幹線の工事
 が着々と進んでいました。
 社長さんの家に、近くの寺
 の住職さんがお参りに来ら
 れた事も覚えています。社
 長さんも浄土真宗の御門徒
 です。社長さんいろいろな
 事を教えて下さいました。
 学校も夜九時過ぎには終り
 ました。友達も出来ました。
 歩いて学校へ行きましたが、
 道中怖い事もなく二年間通
 いました。夜ですから昼間
 働いている人も何人かいま
 した。

学校を卒業して教員採用
 試験に合格し、西牟婁の田
 舎の中学校に赴任しました。
 オリンピックという事で昔
 の事が、いろいろと思い出
 されました。今ではなつか
 しい昔の話です。

社長さん夫妻も白髪に
 なつて、私の寺を訪問下
 さつて本当に感動しました。
 初心を忘れずして、残さ
 れた人生を歩んで行きたい
 と思います。

(丸山妙子)

日高組寺院めぐり

光専寺（由良町横浜）

十三代住職 北山 通昭

【沿革】

四百年余り昔、浄土真宗に帰依する先人の方々の心血を注がれたご苦労によって、北山中腹に小さな御堂が建てられました。これが光専寺の始まりであります。当寺に残る最も古い掛け軸には、慶長二年（一五九八年）と記されてあります。本願寺から寺号公称を許されたのは、その後正保二年（一六四四年）のことでありました。



光専寺

それから長い年月を経て、熱心な浄土真宗の門信徒の思いです。

【住職】

昭和三十五年より第十三世通昭がつとめています。以降は、第十四世憲昭、第十五世深翠の予定です。

【年間行事】

- 一月 修正会
- 三月 彼岸会
- 八月 盂蘭盆会
- 九月 彼岸会
- 十一月 報恩講
- 十二月 除夜会

日高組「総代会」 第一回念仏奉仕

日高組総代会はこれまで前期研修会として「寺院めぐり」を実施してきたが、今年度は本願寺念仏奉仕の事業に替えた。

七月九・十日にかけ組内十七ヶ寺から三十六名が参加し、奉仕活動すると共に十二名の方が帰敬式（おみそり）を受式した。

梅雨期であったが、二日間天候にめぐまれた。

一日目は御影堂内の拭き清掃を実施する。夜は宿にて懇親会を開催し、総代間の親睦をはかった。

二日目は午前六時からの晨朝（おつとめ）へのお参り、前夜の懇親会の疲れもなく全員が参拝し、お念仏申すご縁をいただいた。奉仕活動は百華園の落ち葉の清掃、その後、抹茶の接待を受け書院の見学などを行った。

帰路の途中で、親鸞聖人様がご出家、得度された青蓮院に立ち寄り、聖人のご苦勞を偲ばせていただいた。

総代の一人は、今回の念仏奉仕



十一回目という方もおられたが、大半は初めての参加であった。ご縁があらばまた参加したいとの

声が多く聞かれ、有意義な研修会になった。

総代会としては、今後も回を重ね実施すべく努力したいと考えてあり、その節はご協力をお願いしたい。

「お寺で楽しい一日」

日高組キッズ・サンガ少年部



「お寺」を子ども達の居場所にとの願いから第六回日高組子どもつどい「キッズ・サンガ」

が八月十八日（土）、光専寺（由良町横浜）で開催されました。猛暑の中でしたが、境内の大きな木が気持ち良い風でみんなを迎えてくれました。

参加者は、小学一年生から六年生まで二十四人で総代会、仏教婦人会、仏教壮年会、寺族婦人会の方々二十六人のご協力をいただきました。

「仏の子」としての誓いの言葉を述べた後、

仏さまのお話を聞いたり、ゲームで遊んだりして楽しみました。



また、風鈴の絵付けをしてきれいなお土産も作りました。昼食は寺族婦人会手作りのカレーライスで「おかわり」の声もたくさんありました。

食後にはスパーボールすくいもあり夏休みの思い出の一日を楽しく過ごしました。

日高組通信

☆行事報告

第三ブロック「聞法の集い」和歌山教区主催、御坊組担当で聞法の集い「門信徒総研修会」が九月一日（土）本願寺日高別院において開催されました。はじめにご講師は、「仏教を学ぶ」ではなく、「仏教に学ぶ」とお話を頂きました。

第二ブロックは、日高組・御坊組・紀南組が一同に会して行われる研修会で、日高別院本堂が満堂のご参拝を頂きました。

☆行事予定

日高組「真宗法座」日高組第十八回「真宗法座」を次の通り開催いたします。日時 十二月九日（日）午後二時会場 教専寺（由良町阿戸）講師 中神章生師どなたでもお参りできます。お問い合わせはご参拝下さい。

☆訂正とお詫び

前号において、日高組新役員紹介で門徒教区会議員小谷勝男（長覚寺）氏を記載漏れいたしました。お詫びします。